



TITLE:

# 京大上海センターニュースレター 第197号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科上海センター

---

CITATION:

京都大学経済学研究科上海センター. 京大上海センターニュースレター 第197号. 京大上海センターニュースレター 2008, 197

ISSUE DATE:

2008-01-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/49759>

RIGHT:

---

---

# 京大上海センターニュースレター

第 197 号 2008 年 1 月 23 日

京都大学経済学研究科上海センター

---

---

## 目次

○ 寧夏大学人文学院霍維洮教授講演会のご案内

○ 鄧小平とプーチンの共通項

+++++

### 京大上海センター主催 寧夏大学人文学院 霍維洮教授講演会のご案内

テーマ 「近代西北回族の社会組織化過程」

日 時 1 月 31 日 (木) 午後 3:00-

会 場 経済学研究科 201 演習室

霍 維洮教授のプロフィール：中国近代史研究の専門家。特に回族を中心とする少数民族史研究で名高い。寧夏大学歴史学部長を経て現在寧夏大学人文学院院长、教授。寧夏歴史学会副会長。著書は『同治年甘肅反清運動性質の再考』、『近代西北回族の社会組織化過程に関する研究』など。

+++++

### 鄧小平とプーチンの共通項

25. DEC. 07

株式会社小島衣料代表取締役社長 小島正憲

鄧小平とプーチンの共通項の一つは、院政である。

院政とは、広辞苑によれば、「①白河上皇の専制的な権勢下に定着した、院庁で上皇または法皇が国政を行うのを常態とした政治形態。名目上は江戸末期の光格天皇まで続くが、実質的には鎌倉末期の後宇多上皇の時期までの250年間である。②転じて、いったん引退したはずの人が、なお実権を握って取り仕切ること」とのことである。一般の日本人には、いったん引退した人間が裏で糸を引くような陰險なやり方は好まれず、院政は評判が悪い。しかし一方で、美川圭氏は「院政」(中公新書)で、「院政の良さは、上皇がそれまでの窮屈な天皇という地位を離れて、責任のない自由な立場で、大胆な施策を立案し実行できることである」と書き、院政を肯定的に評価している。たしかに鄧小平は院政をしきながら、中国を改革開放へ導いた。プーチンはこれから院政をしいて、ロシアを再び強国の地位に戻そうとしている。はたして院政は是非か。

時事通信によれば、12月10日、ロシアのプーチン大統領はメドベージェフ第一副首相(42歳)を、来年3月2日の大統領選挙の候補者として支持すると述べ、後継指名した。先の大統領選挙で与党・統一ロシアを圧勝に導くなど国民的人気の高い大統領の支持表明で、同第一副首相が次期大統領に当選することは確実とみられる。来年退任するプーチン大統領の後継レースでは、イワノフ第一副首相やズブコフ首相らも有力視されていたが、リベラル派として欧米の受けのよいメドベージェフ氏を選んだ。プーチン大統領は信任の厚いメドベージェフ氏を後継大統領に据え、院政をしくとみられる。

中国の改革開放を推し進めた鄧小平は、その過程で天安門事件に遭遇したが、趙紫陽総書記を切り捨

てることによって、その危機を乗り越えた。次いで南巡講話を発表し、改革開放路線を飛躍的に発展させ、完全に軌道に乗せた。そのときの地位は、共産党総書記でも国家主席でも総理でもなく、単なるひら党員であった。つまり責任のない立場で自由に発言し、大きく社会を動かしたわけであり、まさにそれは院政そのものであった。鄧小平は院政のメリットを最大限に引き出した人物である。このように日本では否定的に捉えられがちな院政も、他国では重要な役割を果たしてきたと見るべきであろう。

私事で恐縮だが、私は来年2月末で、小島衣料の代表取締役社長を退任する。私は大学を卒業し社会に出たときから、人生を10年で一節と考え、そのつど大きく方向転換をしてきた。したがって61歳で5度目の転換をして次のステージに移るのは、私にとっては既定の路線である。わが社の後任は私の40年来の戦友である和田博常務である。今日の小島衣料は彼の力がなければありえなかったし、実力も人格も識見も申し分ないので、私にとって後顧の憂いはまったくない。そこで少し早めではあるが、お世話になった皆様のところに、ぼつぼつと退任のあいさつ回りをはじめている。

ところが訪問先のところどころで、皆様から「これからは院政ですか」と冷やかされるので、苦笑しているところである。私は院政をしくつもりはまったくない。だから皆様には、そのつど下記のように説明させていただいている。

《後鳥羽上皇は院に身を置きながら、新古今和歌集を編纂しました。この歴史的かつ文化的偉業に学び、私は院政のこの部分のみを見習いたいと思っています。

香港に自分の活動拠点を移し、華僑やユダヤ商人、アラビア商人などから、その人生哲学をもっと深く学び、さまざまな人間の生き様を直視させていただき、より直截な文章を書いていきたいと思っています。責任のない自由な立場で、金銭や利害関係にとらわれない斬新なアイデアを産み出し、それを実現させていきます。

若手経営者を引き連れて、戦国古戦場実地踏破研修を行い、彼らの経営能力を鍛錬します。さらに彼らをナポレオンや毛沢東など海外の戦跡にもいざない、国際的な視野を持つ人材を育成します。》